

日医ニュース

2021. 6. 20 No. 1435

日本医師会
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.info@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



トピックス

- 定例記者会見 2~3面
- 令和4年度政府概算要求に対する日本医師会要望の説明会 4面
- 勤務医のページ 8面

ワクチン接種推進のための好事例

●和歌山県医師会

郡市医師会と自治体が連携し、地域の実情に応じた接種体制を構築している。個別接種に多くのかかりつけ医が携わっているだけでなく、集団接種では、会員が休日返上で出務するなど、医師会が総力を挙げて取り組んでいる。

●小金井市医師会（東京都）

市内に大きな医療機関がなく、かかりつけ医による個別接種を重視しており、そのことが接種の加速につながっている。

日常の診療に支障を来さないように考慮しつつ、かかりつけの患者が受診した際、「今度受診する時に一緒にワクチンも接種されますか」と聞いたり、電話をしたりして、患者の意向にきめ細かく対応している。

●相馬郡医師会（福島県）

市と医師会、医療関係者が緊密に連携を取り、地区単位で2回のワクチン接種の日時を指定して、原則、集団接種で行う独自の方式、いわゆる「相馬モデル」を導入している。

会員は午後を休診にして医師、看護師、事務職がチームで出務し、市からは休業補償金が支給されている。接種当日の予診をスムーズに行うため、接種券を郵送する際に事前に予診票をかかりつけ医に確認してもらうよう呼び掛けている。接種日時を指定することで、予約の混乱や、接種を受ける時の待ち時間もなく、非常にスムーズに接種が行われている。

立谷秀清相馬市長は「一番大事なことは、普段からの行政と医師会との信頼関係である」と指摘している。



中川俊男会長は6月2日、定例記者会見を行い、新型コロナウイルスワクチンの接種が本格化している昨今の状況について、日本医師会の見解を説明。全国の医師会から寄せられた課題や好事例を基に、ワクチン接種の推進に全力で取り組む考えを示した。

中川会長はまず、東京都や大阪府の大規模接種センターにおいて、自治体との二重予約等により直前にキャンセルが出る問題が起きている状況に言及。「大規模接種センターなどに重複して予約された場合には、余裕をもってキャンセルの連絡をしてもらいたい」と述べるとともに、「現在、ワクチンの供給量は十分確保されており、接種できる場所の選択肢も増えてきている。希望される方は必ず接種を受けることができるので安心して欲しい」と呼び掛けた。また、地域の医師会や

中川会長はまず、東京都や大阪府の大規模接種センターにおいて、自治体との二重予約等により直前にキャンセルが出る問題が起きている状況に言及。「大規模接種センターなどに重複して予約された場合には、余裕をもってキャンセルの連絡をしてもらいたい」と述べるとともに、「現在、ワクチンの供給量は十分確保されており、接種できる場所の選択肢も増えてきている。希望される方は必ず接種を受けることができるので安心して欲しい」と呼び掛けた。また、地域の医師会や

中川会長

全国の好事例を横展開し

ワクチン接種を推進していく考えを表明

ついても、その解決策が明らかになってきていると説明。それら各地域で工夫している取り組みや課題等に関する情報を、地域の医師会から報告できるよう、日本医師会のホームページ内に新たなシステムを設置したことを報告し、集まった事例を今後、全国の医師会に横展開することで、接種の推進を図っていききたいとした。

今こそ、医師会の底力を見せよう！ ワクチン接種にご協力を

日本医師会では、ワクチン接種を進めるためにも、個別接種が大きな戦力になると考えています。

希望する全ての皆さんに接種できるように、先生方のご協力をお願いします。



中川会長は最後に、接種を希望する人が、速やかに接種を受けられるよう、学校や職域といった、あらゆる場面で接種を受けられる体制づくりが今後ますます必要になってくると指摘。「引き続き、

多重予約問題の解決のため、 ウェイトイングリストの作成を提案 ——猪口副会長

同日の会見に出席した猪口雄二副会長は、新型コロナウイルスワクチン接種の現状について説明した。

集団接種会場や病院における、医師、看護師、薬剤師など医療従事者のチームによる接種について、非常に効率的である



また、「接種会場の一連の流れがうまくマネジメントできていない」「初見の人は予診に手間取る」といった集団接種会場の流れが円滑に進まない事例が見られることに

重予約によるキャンセルの問題についても言及。予約は1方所という原則はあるものの、当日の体調面でのキャンセルを含め、現実的にはキャンセルをゼロにはできないことを踏まえ、「接種会場等におけるキャンセル対応として、いわゆるエッセンシャルワーカーと呼ばれる方を中心とした、簡単なウェイトイングリストのようなものを作成することが一つの解決方法になるのではないかと」の考えを示した。

一方、担い手の求職とのマッチングがうまくいっていない事例が多く見られると指摘。医師、看護師を始め、協力の意向を示している医療従事者は多く、「日本医師会女性医

活用等により、マッチングの問題は解決するのではないかとの見方を示した。また、同副会長は、現在問題となっている多

日医 定例記者会見

5月26日・6月2日

医療法等の一部を改正する法律の成立を受けて見解を示す



病床機能再編支援事業

今後については、平時の対応と有事の対応を整理し、具体的な計画に落とし込んでいく必要がある。①マスク、個人防護具、人工呼吸器、ECMOなどの資材の備蓄②医療従事者、特に専門スタッフの確保と病床の確保——が重要であると説明した。

外来医療機能

外来医療機能について、外来機能報告を基に、調整会議を活用するなどして、「医療資源を重点的に活用する外来」を基幹的に担う医療機関について協議を行うことになっているが、「医療資源を重点的に活用する外来」は、手挙げを基本に自主的に進める点がポイントであると強調。今後、厚生労働省が具体的な対応方針の再検証対象医療機関として発表した医療機関約440病院の中にも、新型コロナウイルス感染症への対応において地域で重要な役割を果たしてきた病院もあること

新興感染症等対策の5疾病5事業への追加

中川俊男会長は、日本医師会がこれまで都道府県医療計画に新興感染症等への対策を追加するよう主張してきた経緯から、医療計画(5疾病5事業)の6番目の事業として追加されたことを高く評価。改正法の施行は、2024年から始まる第8次医療計画に合わせるため、2024年4月からとされているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は依然として予断を許さない状況であるとして、医療計画における新興感染症対策事業の検討、施策の実施を前倒しで進めることを国に要請した。

「下、調整会議」が重要な役割を担うが、議論が停滞しているところがある。財政当局は、地域医療構想を病床削減ツールとして利用しようとしているが、地域医療構想は、自主的な収れんを理念としており、調整会議で関係者が地域の実情を踏まえた議論を行うことが重要である」と強調。地域医療構想の理念を確認し、調整会議の議論を活かせるよう、日本医師会としても支援を続けていく意向を示した。

「(1)に関しては、2024年度からスタートする新制度が、地域医療とのバランスを見ながら時間をかけて改革していくことになった点を評価。やむを得ず一定以上の長時間労働の医師に対して、医師による面接指導が義務化されることについては、面接指導実施プログラムの等日本医師会として積極的に関与していくとした。

「(1)に関しては、2024年度からスタートする新制度が、地域医療とのバランスを見ながら時間をかけて改革していくことになった点を評価。やむを得ず一定以上の長時間労働の医師に対して、医師による面接指導が義務化されることについては、面接指導実施プログラムの等日本医師会として積極的に関与していくとした。

「(1)に関しては、2024年度からスタートする新制度が、地域医療とのバランスを見ながら時間をかけて改革していくことになった点を評価。やむを得ず一定以上の長時間労働の医師に対して、医師による面接指導が義務化されることについては、面接指導実施プログラムの等日本医師会として積極的に関与していくとした。

「(1)に関しては、2024年度からスタートする新制度が、地域医療とのバランスを見ながら時間をかけて改革していくことになった点を評価。やむを得ず一定以上の長時間労働の医師に対して、医師による面接指導が義務化されることについては、面接指導実施プログラムの等日本医師会として積極的に関与していくとした。

「(1)に関しては、2024年度からスタートする新制度が、地域医療とのバランスを見ながら時間をかけて改革していくことになった点を評価。やむを得ず一定以上の長時間労働の医師に対して、医師による面接指導が義務化されることについては、面接指導実施プログラムの等日本医師会として積極的に関与していくとした。

「(1)に関しては、2024年度からスタートする新制度が、地域医療とのバランスを見ながら時間をかけて改革していくことになった点を評価。やむを得ず一定以上の長時間労働の医師に対して、医師による面接指導が義務化されることについては、面接指導実施プログラムの等日本医師会として積極的に関与していくとした。

医師の働き方改革

一方、今村聡副会長は「(1)医師の働き方改革、(2)タスクシフト・タスクシェア、(3)医師の養成課程の見直し——の3点に関する日本医師会の見解を説明した。

一方、今村聡副会長は「(1)医師の働き方改革、(2)タスクシフト・タスクシェア、(3)医師の養成課程の見直し——の3点に関する日本医師会の見解を説明した。

一方、今村聡副会長は「(1)医師の働き方改革、(2)タスクシフト・タスクシェア、(3)医師の養成課程の見直し——の3点に関する日本医師会の見解を説明した。

一方、今村聡副会長は「(1)医師の働き方改革、(2)タスクシフト・タスクシェア、(3)医師の養成課程の見直し——の3点に関する日本医師会の見解を説明した。

一方、今村聡副会長は「(1)医師の働き方改革、(2)タスクシフト・タスクシェア、(3)医師の養成課程の見直し——の3点に関する日本医師会の見解を説明した。

新型コロナウイルス感染症対応 日本医師会休業補償制度 中途加入申し込みを再開

お知らせ

日本医師会では、「新型コロナウイルス感染症対応日本医師会休業補償制度」の中途加入の申し込みを再開しました。本制度は、医師を始めとする医療従事者、事務職員が新型コロナウイルスに感染もしくは濃厚接触をした場合に、その対応のために支出した消毒費用等や一時的に閉院または外来閉鎖を余儀なくされた時の逸失利益、家賃などの継続費用を補償するために創設したものです。ぜひ、加入のご検討をお願いします。本制度の詳細は、同梱のチラシ(本紙9、10面)をご覧ください。

問い合わせ先：日本医師会地域医療課
 ①jmabi2020@tmnf.jp (制度全般について)
 2020jmabi@tokio-mednet.co.jp (加入申し込み方法、その他事務手続きについて)

タスクシフト・タスクシェア

「(2)については、いわゆるタスクシフト、タスクシェアとして、医療関係職種の業務の見直しが行われることに関して、安全な医療を守るため、医師による医療統括、すなわち「メディカルコントロール」と、しっかりと教育体制が必須となると強調。特に、救急救命士については、医療機関の中で業務を行うことを前提とせずに養成されてきたことを踏まえ、他の職種との相互理解を深

医師の養成課程の見直し

また、(3)に関しては、いわゆる「student doctor」が制度化されることについて、日本医師会が2018年5月21日、全国医学部長病院長会議と共同して、「卒業後のシームレスな医学教育を実現するための提言」を取りまとめたこと、同様の制度改正を主張してきたことを紹介。今回の法改正はこれからの医師養成にとって極めて重要になるとして、医療安全と国民の医療への信頼を守るため、「CBTやOSCEの更なる改善」と、「診療参加型臨床実習の充実」を、国民の理解も得ながら、求めていく考えを表明し、これらの取り組みによって、より基本的診療能力が獲得されることに期待感を示した。

また、(3)に関しては、いわゆる「student doctor」が制度化されることについて、日本医師会が2018年5月21日、全国医学部長病院長会議と共同して、「卒業後のシームレスな医学教育を実現するための提言」を取りまとめたこと、同様の制度改正を主張してきたことを紹介。今回の法改正はこれからの医師養成にとって極めて重要になるとして、医療安全と国民の医療への信頼を守るため、「CBTやOSCEの更なる改善」と、「診療参加型臨床実習の充実」を、国民の理解も得ながら、求めていく考えを表明し、これらの取り組みによって、より基本的診療能力が獲得されることに期待感を示した。

新型コロナウイルスワクチンの承認を受けて



宮川政昭常任理事は、5月21日に新型コロナウイルスワクチンとして「モデルナ筋注」と「バキセブリア筋注」の2種が承認されたことを受けて、それぞれのワクチンの特徴や副反応等について説明した。

以降で94%、副反応は1回目接種後よりも2回目接種後の方が頻度が高く、筋肉痛や疲労については「コミナティ」と比較するとやや高い頻度で見られることを概説。しかし、安全性に重大な懸念は認められないことから、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会において予防接種法上の接種に用いることが決定され、現在、国主導で設置された集団予防接種会場で使用されているとした。

また、懸念されている血栓については、「血栓症のリスクを踏まえても、ワクチンの有効性や安全性を考慮し、了承して差し支えないと判断された」との田村憲久厚生労働大臣の発言を引き合いに、「科学的に有効性・安全性が確認された医薬品が承認されることは、当然の行政プロセスである」と強調。「血小板減少を伴う血栓症」に関する

では、血小板第4因子とワクチンに含まれる「α-DiGm」等が複合体を形成し、その複合体に対して形成された抗体が、血小板の活性を惹起する可能性が考えられており、MRIなどの画像で診断は可能となっているとした。

最後に同常任理事は、ワクチンの確保に向けた政府の尽力に謝意を示すとともに、「わが国が一

気収束への道筋を描けるようにこれまで以上に、集団・個別いずれのワクチン接種も推進すること

で、安心・安全な国民生活を守っていききたい」と述べた。

小児在宅ケアの推進について

松本吉郎常任理事は、「小児在宅ケア検討委員会(田村正徳委員長/埼玉医科大学総合医療センター名誉教授)」が取りまとめ、5月21日に中川俊男会長に提出した中間答申の内容及び今後の小児在宅ケアの推進に向けた方策について説明した。

わが国では、日常的に人工呼吸器や経管栄養などのケアを必要とする医療的ケア児が、令和元年

時点で全国に約2万人いるとされており、日本医師会では、平成28年度から同委員会を設置し、医療的ケア児やその家族を支えるための方策、課題について検討を行っている。

今回の中間答申について松本常任理事は、「各地域で小児の在宅医療体制を整備していくために

また、小児在宅ケアの推進に関して、ライフステージに応じた適切な医療・福祉サービスの提供が求められるという「協

議の場」について、都道府県単位では全県で設置、市町村でも7割近くで設置されているものの、実際には開催頻度が少ないことを指摘し、「医師会としても積極的に関与していく必要がある」と述べた。更に、地域の医師会で行われている、小児の在宅医師研修の実施や退院時の在宅医のマッチングなどの動きを広げていき、医療的ケア児の療養生活を支援していく考えを示した。

6月23日

沖縄県のカレンダーでは、6月23日は「慰霊の日」という県が定めた休日だ。第二次世界大戦で唯一地上戦が行われた沖縄で、組織的戦闘が終了した日を記念して定められた。

この日、公立学校等は休校となり、県と市町村の庁舎も閉庁する。例年は、沖縄全戦没者追悼式が摩文仁の平和祈念公園で大規模に開催されるが、昨年来コロナ禍で縮

小開催となっている。今年も、それに続いて「オリンピックデー」とあった。1894年6月23日に、ピエール・ド・ク

ン全戦没者慰霊祭で毎年披露される高校生の「平和の詩」の朗読には、自然と涙がこぼれる。

昨年、戦後75年の節目であり、戦争体験が戦争を知らない世代に確実に受け継がれ、風化して

いなことが確認でき、感慨深かった。

オリンピックコンサートでは、選手のパフォーマンス等がオーケストラの演奏とともに披露され、ドラマチックな感激を与えたという。

新型コロナウイルス感染症の影響は選手達にも等しく及ぶ。この現実が更なる物語を紡いでオリンピック大会本番へ向かうことは容易に想像できない。

6月23日。平和への思いを共有したい。



祭で毎年披露される高校生の「平和の詩」の朗読には、自然と涙がこぼれる。

昨年、戦後75年の節目であり、戦争体験が戦争を知らない世代に確実に受け継がれ、風化して

いなことが確認でき、感慨深かった。

オリンピックコンサートでは、選手のパフォーマンス等がオーケストラの演奏とともに披露され、ドラマチックな感激を与えたという。

新型コロナウイルス感染症の影響は選手達にも等しく及ぶ。この現実が更なる物語を紡いでオリンピック大会本番へ向かうことは容易に想像できない。

6月23日。平和への思いを共有したい。



中川会長に中間答申を手渡す田村委員長 (中央)

併せて、就学の問題については、田村委員長が研究代表者を務めている厚生労働行政推進調査事業費補助金政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)の結果から、訪問看護師を学校に派遣して、学校看護師と共に医療的ケアを行うことで、保護者の負担軽減や他の健常の子ども達への教育的効果が大きいなどの知見が得られたことを紹介。「現在は訪問看護師が訪問看護を行う場としての「居宅等」に学校が含まれていないため、診療報酬の算定ができないが、このような点も含め総合的に検討していく必要があるのではないかと述べた。

その他、同常任理事は、保育所での受け入れや障害福祉サービスの報酬改定などで、国による医療的ケア児や家族の支援に向けた動きが進んでいることを評価。その一方で、障害福祉計画において設

定が求められる「協議の場」について、都道府県単位では全県で設置、市町村でも7割近くで設置されているものの、実際には開催頻度が少ないことを指摘し、「医師会としても積極的に関与していく必要がある」と述べた。更に、地域の医師会で行われている、小児の在宅医師研修の実施や退院時の在宅医のマッチングなどの動きを広げていき、医療的ケア児の療養生活を支援していく考えを示した。



計報
■森下立昭氏(元香川県医師会長/日本医師会監事・理事)
5月23日死去、91歳。葬儀・告別式は、近親者のみにて執り行われた。氏は昭和5年生まれ。昭和32年岡山大学医学部卒業。昭和42年森下内科医院開業。
平成16年4月から平成26年6月まで香川県医師会長を5期務めた。
また、その間、平成20年4月から平成22年3月まで日本医師会監事、平成22年4月から平成24年3月まで日本医師会理事を1期ずつ務めた。
平成21年に旭日小綬章を受章している。

令和4年度政府概算要求に対する日本医師会要望の説明会

新型コロナウイルスや働き方改革への 予算確保など4項目に絞って要望



当日はまず、松本常任理事が、「今までの概算要求要望は分量が多すぎるとの指摘があったため、今回は特に重要な課題である4項目に絞って要望することとした」と説明。具体的には、(1)新型コロナウイルス感染症等への予算確保、(2)働き方改革への予算確保、(3)地域医療への予算確保、(4)データヘルス改革実現のための

「令和4年度政府概算要求に対する日本医師会要望の説明会」が5月25日、厚生労働省とのWEB会議で開催され、今村聡・松原謙二・猪口雄二各副会長、釜淵敏・松本吉郎・長島公之各常任理事が出席。要望(全文は日本医師会ホームページ)の表現に向け、趣旨を説明した。

この対して高城亮新理事長は、「医療従事者の確保や、医療機関の働き方改革の推進は、コロナ患者の受け入れを行っている医療機関に対する病床の確保や処遇改善に関する支援の他、コロナ対応を行っていない医療機関に対する感染予防のための支援も含め、これまで計4・6兆円の予算を措置してきた」と強調。その上で、「今回の提案を念頭に、引き続き感染症対応に必要な支援を行うために、令和4年度の予算の確保を検討していく」との姿勢を示した。

また、釜淵常任理事はワクチン接種を推進するため、自治体が実施する集団接種会場への医療従事者の派遣や、個別の医療機関における接種の拡大が必要として、引き続きの支援を要請した。

(2)働き方改革への予算確保に関しては、2024(令和6)年度からの医師の働き方の新制度施行に向け、「教育、

令和4(2022)年度政府概算要求要望の概要

- 1. 新型コロナウイルス感染症等への予算確保**
 - 新型コロナウイルス感染症患者の受入病床確保への支援策
 - 発熱外来診療体制(診療・検査医療機関)の維持・充実
 - 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止・医療提供体制確保支援補助金の継続、並びに人件費への補助の拡充
 - 必要な医療資機材等の供給・備蓄体制の構築
 - 感染症患者の搬送体制の整備
 - 医療従事者等に対する支援、補償
 - ワクチン・抗ウイルス薬の開発・備蓄の拡充
 - 不測の事態に備えた余裕のあるワクチンの供給体制の整備
 - 安全な予防接種実施の推進
 - 感染症、予防接種に関する報告等の事務負担軽減
- 2. 働き方改革への予算確保**
 - 医師の働き方の制度の基盤整備
 - 教育、研究、臨床、地域医療支援を担う大学病院の働き方改革の支援
 - 医療従事者のタスクシェア・タスクシフト推進のための支援
 - 上手な医療のかかり方の推進
- 3. 地域医療への予算確保**
 - 地域医療介護総合確保基金の拡充及び柔軟運用
 - 地域医療介護総合確保基金以外の補助事業の拡充
 - 救急災害医療対策
- 4. データヘルス改革実現のための予算確保**
 - HPKIの利用環境と一層のセキュリティ基盤の整備
 - オンライン資格確認導入支援
 - 医療機関等のサイバーセキュリティ対策支援
 - 各種情報システムの一元化の推進
 - 医療情報連携の推進及び適切な活用のための環境整備
 - AI・IoT研究・開発支援

に努めるとした上で、「令和3年度はこれまで補助事業で行ってきた病床機能再編支援事業が、基金の中に全額国庫事業として位置付けられる。既に機能分化・連携の議論が進められている医療機関・地域を積極的に支援していきたい」として、その活用を求めた。

救急災害医療に関して、釜淵常任理事が災害対策基本法の改正に言及。「これからは、要配慮者への地域医師会の関わりも重要となるので、そこへの予算措置もお願いしたい」と要望した。

(4)データヘルス改革実現のための予算確保に関しては、「HPKIに

利用環境と二層のセキュリティ基盤の整備」や「オンライン資格確認導入支援」など6項目を求めた。

これに対して、笠松淳也医政局研究開発振興課長は、オンラインやマイナンバーカードを活用して、全国で医療情報を確認できる仕組みを拡大するとともに、電子カルテ情報及び交換方式の標準化を進めていくとした上で、「ICTを活用した地域医療連携を行うHPKIの利用環境の整備は大変重要であり、その普及と定着を図る必要がある。引き続き予算の確保に努めたい」と述べた。

これに関連して、長島

常任理事は、オンライン資格確認について、医療機関の負担が大きくなっては実現しないとして、導入や維持への予算措置を求めた。

最後に、公務により欠席した中川俊男会長に代わり今村副会長があいさつし、「例年の要望と違い、4点に絞ってお願いしている。どれも重要な要望なので、ぜひともその実現に向けたご配慮をお願いしたい」と要請。迫井正深医政局長は、日頃の新型コロナウイルス感染症への対応に謝意を示した上で、「本日頂いた概算要求要望に反映していきたい」と総括した。

「令和4年度政府概算要求」の4項目で構成したとして、項目ごとに要望の概要を述べた後、厚生労働省事務局よりそれぞれコメントがなされた。

(1)新型コロナウイルス感染症等への予算確保
釜淵常任理事は「ワクチン接種を推進するため、自治体

人事課 03-3942-6493・総務課 03-3942-6481 / 03-3942-6477・施設課 03-3942-7027・経理課 03-3942-6486・広報課 03-3942-6139・編集企画室 03-3942-6488・日本医師会 03-3942-6140・医学図書部 03-3942-6482 / 電子認証センター 03-3942-7050
医療保険課 03-3942-6490・介護保険課 03-3942-6491・産業経営支援課 03-3942-6487・生涯教育課 03-3942-6139・編集企画室 03-3942-6488・日本医師会 03-3942-6140・医学図書部 03-3942-6482 / 電子認証センター 03-3942-7050

医療経済実態調査で 今年6月を対象とした単月調査の 追加実施を了承

中医協総会

中医協総会が5月26日、令和4年度診療報酬改定に向けた基礎資料を得るために実施する医療経済実態調査に関して、直近の2事業年度分の調査に加えて、直近の医療機関等の経営状況を把握するため、今年6月、その比較対象として令和元年6月と2年6月の単月調査を実施することを了承した。

厚生労働省事務局は総会で、新型コロナウイルス感染症について「依然として収束しておらず、



城守国斗常任理事は、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した医療機関では、一時、病院や病棟を閉鎖するなどの対応を迫られ、収益に大きな影響が出ていることを説明し、クラスター発生の有無も合わせて調査することを提案。厚生労働省事務局は「どのような手法が考えられるのか検討したい」と回答し、その後、調査票に追加されることになった。その他、6月を「賞与月」としている医療機関

等も少なくないことを踏まえて、「賞与を除く給与」と「1カ月当たりの賞与」とを分けて調査票に記載することも了承された。

今村副会長が退任のあいさつ

当日の総会では、中医協委員を退任することになった今村聡副会長が、あいさつを行った。

今村副会長は、コロナ禍での中医協の議論に関して、「公的医療保険制度が確立してから誰も経験したことのない環境の中での議論だった」と振り返った上で、今後については、「国家財政がますます厳しくなる中で、医療費に対する制約は層厳しくなることが考えられるが、科学技術は著しく進歩し、国民に医療技術の進歩を等しく享受してもらうには財政的制約は大きな隘路になる。中医協はこうした難しい課題に立ち向かう最前線にあるわけであり、引き続き真摯な議論を交わしてもらいたい」と述べた。

また、本来、中医協で議論すべき事項に対して外部からの介入があることに懸念を表明。「本日で委員を退任することにはなるが、これからも中医協が本来の役割を果たすことができるよう最大限の支援をしていきたい」とした。

「人生会議」の普及・啓発を目的に 厚生労働省が動画を制作

厚生労働省はこのほど、「人生会議」(もしもの時のために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取り組み)の普及・啓発のため、動画を制作しました。



本編インタビュー「人生会議してみませんか？」



動画は、タレントの生稲晃子さんや関根勤さん・麻里さん親子を始めとした5組が出演するインタビューと、専門家の方々による座談会となっています。

羽鳥裕常任理事が参加した座談会では、専門家の方々が、自身の経験を踏まえ「人生会議」についての考え方や、今後どのように普及させていくかなどを話し合っています。

動画は、厚労省のホームページに掲載されている他、日本医師会のホームページからもリンクを張っていますので、ぜひ、ご覧下さい。

〔日本医師会ホームページ「医師のみなさまへ」▶ 医の倫理▶ アドバンス・ケア・プランニング (ACP)〕

南から北から

福岡県
北九州市医師会報
第762号より

お家キャンプのススメ 高橋 陽子



家族の多い我が家、外出しにくいこのご時世に家の中は3密です。休みの日に家にいれば、あつちで「ぎゃーぎゃー」こ

うちで泣き声と、「動物園かい、うちは？」という、うるささ。

そこで、四人の元気余る子ども達をとにかく外へと思い、始めたのがお家キャンプです。アウトドアとは全く縁のない人生でしたが、これがなかなかの当たりでした。まず昨今のキャンプ需要

で、キャンプ用品が豊富でめっちゃお洒落。近くのショッピングセンターのアウトドアコーナーが

すごく充実していて、BQセット、椅子やテーブル、テントを一揃えすると、あら不思議、キャンプ初心者がかねれたキャンプパーに大変身です。

そこに灯りはランタンなんか置くと、インスタ映えばっちり。更にお好みの音楽をスマホからポーターブルスピーカーにつないで流し、たき火を眺めると、さっきまでの3密動物園が星降る山のキャンプ場へ早変わりする

家族の多い我が家、外出しにくいこのご時世に家の中は3密です。休みの日に家にいれば、あつちで「ぎゃーぎゃー」こ

キャンプ飯ももちろん重要です。炭火で焼いた肉は周りカリッと中はジューシー、余分な脂は落ちて決してしつこく感じません。特にお薦めは手羽先です。開いた手羽先にしつかり塩を振り、皮

を焦げるぎりぎりまでパリパリに焼いて食べ、冷えたビールを飲む。もう、この高級焼き鳥、わがわが食べに行かんていいやんと思います。

楽しみが少ないと嘆いていましたが、こんな身近に楽しみがあるのは幸せなことですね。不平不満を夫にぶつげず、肉をひたすら焼く夫の背中を笑顔と感謝で見守れる人間になろうと、2021年は決意した次第です。

滋賀県
大津市医師会誌
第505号より

月並みな趣味 (若干マニア) 近藤 恭子



旅行です。とても好きなんです。学生時代、毎年夏は長期旅行に行っていました。割とマニアな一人旅

です。あの当時よくあった(今でもあるとは思いますが)ユースホステルのような安宿を利用しながら、1カ月単位で回るといふスタイルでした。特に夜行列車を利用しての移動が大好きで、よく乗りました。夜遅くのターミナル駅の雰囲気

気今でも思い出します。当然寝袋も持っていましたし、靴が濡れたらバックからぶら下げた、干しながらビーチサ

家族の多い我が家、外出しにくいこのご時世に家の中は3密です。休みの日に家にいれば、あつちで「ぎゃーぎゃー」こ

使していました。「東側」という今の若者には「東」みたいなエリアも多くあり、そういう国ものぞきに行きました。

女の子の一人旅はどこでも注目的で、絶えず誰か話し掛けてくるため、その土地の簡単な単語など常に覚えるようにしていました。特に、年配の女の友達フレンド

リーで、田舎では地図なんか広げようものなら頼んでもないのに老人が周囲に集合して色々教えるよと騒ぎになったりと

……日本とは違う密がよくあり、広げずにこっそりとした確認が時に必要なほどでした。

家族や友人との旅行はとも楽しいのですが、他の人とはほとんど話しませんよね。その当ても友人と旅行に行った時はあんなに話し掛けられなかったのです、その土地を

楽しむには一人旅の方が良かったんです。確かにこの大津でバックパックの女子が地図を見ていたら、声を掛けられると思うので、この年齢になり、彼らの気持ち分かるような気がします。

そんなマニアな私も、卒業してからは当然そんな時間もなくなり、また海外旅行に行き始めたのは、子どもが中学生になってからです。ホテルはネットで予約できるし、写真や口コミも確認できるし、位置情報から経路探

家族の多い我が家、外出しにくいこのご時世に家の中は3密です。休みの日に家にいれば、あつちで「ぎゃーぎゃー」こ

新潟県
新潟市医師会報
第600号より

着物の思い出 八木澤 久美子



昭和62年5月、私は医師になりました。そこから内科の研修が始まりました。大学病院で研修し、その傍ら、生活のためにアルバイトで病院当直やら内科外来やらいろいろ行かせて頂き、診療して

いました。これはその頃の思い出話の一つです。場所は忘れてしまいましたが、どこかの診療所の内科外来でした。古い建物でしたが清潔感あふれる少し広めの診察室で

掛かるでしょう。ところが胸部聴診の時、がばっと大きく着物を開き前胸部を出してくれました。難なく聴診ができたので、もちろん腕まくりもスムーズで血圧測定も難なくできました。診察が終わると、入口脇のカーテンで仕切られた脱衣スペースでささっと素早い動作で(カーテン内なので見えませんが)着物を直して、想像です)お着物を直して、驚くほど速いスピードでささっと退室していきま

家族の多い我が家、外出しにくいこのご時世に家の中は3密です。休みの日に家にいれば、あつちで「ぎゃーぎゃー」こ

が胸部聴診の時、がばっと大きく着物を開き前胸部を出してくれました。難なく聴診ができたので、もちろん腕まくりもスムーズで血圧測定も難なくできました。診察が終わると、入口脇のカーテンで仕切られた脱衣スペースでささっと素早い動作で(カーテン内なので見えませんが)着物を直して、想像です)お着物を直して、驚くほど速いスピードでささっと退室していきま

した。今となっては、はっきりと思い出せませんが、着ていたお着物はおそらく織りの良い綿だったのでは、と思われま

す。その時のサツ、シャシヤシヤという音がしがしい衣擦れの音、ほのかな匂い袋と樟脳シロモノの混ざった香り、耳に鼻に記憶に残りました。

当時、お医者様に掛かる時は精一杯のおしゃれをして下さる方が多くいらした気がします。和装で来院される方は少ないとはいえず、いらしゃいました。ですが、平成、令和と今では皆無です。話は現在に戻ります。

和装でいらっしゃる方は少なくりましたが、お着物をリメイクして、ジャケットやベストで来られる方は増えました。リメイクするくらいですから質の良い大切なお着物だったのでしょうか。先日

来られた患者さんは大島紬オビノ(と思われる)で、しっかりした織りのお着物で、長めのベストにリメイクして着こなされていました。診察中にもかかわらず思わず、「すてきなお着物ですね」と声を掛けてしまいました。その方は「はあ、何ですって? 耳が聞こえないものですか」と言われました。

「すてきなお着物ですね」と先生が言っておられましたよ」と耳のそばで繰り返してくれました。「まあ、それはそれは」とその方は、はにかみながら答えられました。

先日テレビである年配の女優さんが、若い女優さんに着物の着方のポイントを教えてあげたという話をされていました。昔の人は皆、着物を着ていて、それでも雑巾掛けなどの激しい動作をして

家族の多い我が家、外出しにくいこのご時世に家の中は3密です。休みの日に家にいれば、あつちで「ぎゃーぎゃー」こ

和装でいらっしゃる方は少なくりましたが、お着物をリメイクして、ジャケットやベストで来られる方は増えました。リメイクするくらいですから質の良い大切なお着物だったのでしょうか。先日

来られた患者さんは大島紬オビノ(と思われる)で、しっかりした織りのお着物で、長めのベストにリメイクして着こなされていました。診察中にもかかわらず思わず、「すてきなお着物ですね」と声を掛けてしまいました。その方は「はあ、何ですって? 耳が聞こえないものですか」と言われました。

「すてきなお着物ですね」と先生が言っておられましたよ」と耳のそばで繰り返してくれました。「まあ、それはそれは」とその方は、はにかみながら答えられました。

先日テレビである年配の女優さんが、若い女優さんに着物の着方のポイントを教えてあげたという話をされていました。昔の人は皆、着物を着ていて、それでも雑巾掛けなどの激しい動作をして

和装でいらっしゃる方は少なくりましたが、お着物をリメイクして、ジャケットやベストで来られる方は増えました。リメイクするくらいですから質の良い大切なお着物だったのでしょうか。先日

来られた患者さんは大島紬オビノ(と思われる)で、しっかりした織りのお着物で、長めのベストにリメイクして着こなされていました。診察中にもかかわらず思わず、「すてきなお着物ですね」と声を掛けてしまいました。その方は「はあ、何ですって? 耳が聞こえないものですか」と言われました。

「すてきなお着物ですね」と先生が言っておられましたよ」と耳のそばで繰り返してくれました。「まあ、それはそれは」とその方は、はにかみながら答えられました。

先日テレビである年配の女優さんが、若い女優さんに着物の着方のポイントを教えてあげたという話をされていました。昔の人は皆、着物を着ていて、それでも雑巾掛けなどの激しい動作をして

家族の多い我が家、外出しにくいこのご時世に家の中は3密です。休みの日に家にいれば、あつちで「ぎゃーぎゃー」こ

公益社団法人 日本医師会
女性医師支援センターから
女性医師バンク

新型コロナワクチン接種のための医師の紹介について

女性医師バンクには、現在全国で約2,700名の医師にご登録頂いています。

登録されている女性医師は子育て中などで、普段はスポット勤務や非常勤勤務等の形態で勤務されていることが多いため、新型コロナワクチンの接種においても、柔軟に対応が可能となっています。

今回、登録医師を対象として、新型コロナワクチン接種への協力についてアンケート調査を実施したところ、全体の約7割の先生から、「協力可能」との回答を頂きました。

各自自治体や企業、医療機関において新型コロナワクチン接種を担う医師をお探しの場合は、ぜひ、「日本医師会女性医師バンク」をご活用下さい。

現在、女性医師バンクでは、自治体、医療機関等とも連携を進め、今後の集団接種などへの医師の確保にも協力を行っていく予定としています。

新型コロナワクチン接種のための医師をお探しの方は、ぜひ、「女性医師バンク」にお問い合わせ下さい！



医師の求人・求職は

日本医師会女性医師バンク <https://www.jmawdbk.med.or.jp/>

登録
件数

求職者数1,934人(累計)、求人施設数6,459施設(累計)、
 就業決定及び再研修紹介1,704件(累計)
 (令和3年6月1日現在)

問い合わせ先

女性医師支援センター(女性医師バンク)
 ☎03-3942-6512 ④info-bank@jmawdbk.med.or.jp

「日医君」QUOカード好評発売中!



公式キャラクターである「日医君」デザインのQUOカード(額面500円)を販売しています。

購入方法等の詳細は、日本医師会ホームページ「医師会の取り組み」をご覧ください。

(https://www.med.or.jp/people/info/people_info/009957.html)



作品
募集中



フォト部門

エッセー部門

応募締切 **2021年10月6日(水)必着**

日本医師会では、患者さんとの思い出や、ご自身あるいはご家族の闘病経験、介護や生命の誕生にまつわるお話、あるいは生命の輝く瞬間を捉えた写真を募集しています。ぜひ、ご応募下さい。 詳細はこちら▶ [生命を見つめるフォト&エッセー](#) 検索

差し上げ
ます

いのち **第4回「生命を見つめるフォト&エッセー」入賞作品集**

第4回「生命を見つめるフォト&エッセー」(主催:日本医師会/読売新聞社、後援:厚生労働省、文部科学省)の入賞作品集が、このほど完成しました。

『日医雑誌』5月号に同封済みですが、更にご希望の方は切手140円分を同封の上、下記に申し込み願います(2部以上の希望者は要連絡)。

申し込み・問い合わせ先

日本医師会広報課
 〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
 ☎03-3942-6483(直)



案内

日本医師会Web研修システムを用いた医師の働き方改革に関する講習会



- ◆主催:日本医師会
- ◆日時:7月4日(日) 午後1時~午後4時20分
- ◆開催方法:日本医師会Web研修システムによる配信
- ◆受講資格:日本医師会認定産業医(認定産業医の資格を持っていない方は受講不可)
- ◆受講者数:1,000名(予定)
- ◆受講料:無料
- ◆取得単位:生涯研修(専門1単位・更新2単位)
- ◆申し込み完了後、登録のメールアドレスへ受講に関する詳細が送信される。
- ◆申込方法:受講者はWeb受講の申し込みサイト(https://www.med.or.jp/doctor/work/training_workshop/010083.html)へアクセスし、必要事項を入力して申し込み願います。
- ◆申込期間:6月14日(月)午後2時~6月25日(金)午後6時まで
- ◆留意点:(1)パソコンまたはタブレット端末から視聴願いたい。 ※スマートフォンからの視聴は不可。 ※視聴方法は、受講登録完了後に配信されるメールで確認願いたい。(2)Webシステムにより、下記①~②により各講義の受講を確認する。
- ①各講義中に、Webシステムが定期的にログで視聴を確認。
- ②各講義中に、Webシステムがランダムに配信するキーワードを受講者が入力。
- ◆主なプログラム:
 - ・挨拶(中川俊男会長)
 - ・講習1:「医師の働き方改革に関する議論の経緯について」(今村聡副会長)
 - ・講習2:「厚生労働省「医師の働き方改革の推進に関する検討会 中間とりまとめ」について」(城守国斗常任理事)
 - ・講習3:「医師の働き方改革における個別論点(評価機能事業、宿口直、研鑽の取扱い、兼業・副業等)について」(松本吉郎常任理事)
 - ・閉会(松本常任理事)
- ◆問い合わせ先:日本医師会健康医療第一課(☎03-3942-6138(直))

勤務医のページ

令和3年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会

「医師の働き方改革」 「新型コロナウイルス禍における勤務医の勤務環境の問題点」をテーマに活発に討議

令和3年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が5月21日、日本医師会館で開催された。新型コロナウイルス感染症が流行状況にあることを鑑み、協議会の模様は、WEB会議システムを通じて各都道府県医師会に配信された。

協議会は、勤務医担当の橋本省常任理事の司会で開会。冒頭、あいさつに立った中川俊男会長は、「各地域において、

令和3年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が5月21日、日本医師会館で開催された。新型コロナウイルス感染症が流行状況にあることを鑑み、協議会の模様は、WEB会議システムを通じて各都道府県医師会に配信された。

協議会は、勤務医担当の橋本省常任理事の司会で開会。冒頭、あいさつに立った中川俊男会長は、「各地域において、



会の後を受けて発足した「医師の働き方改革の推進に関する検討会」において協議された内容について改めて説明。

病院常勤勤務医の過労働時間の区分別割合を見ると、平成28年と令和元年の調査では共に、4割弱の勤務医が年間9600時間超の時間外労働を行っているだけでなく、1割弱の勤務医が、1920時間超の時間外労働に従事していることが明らかになったとすると、「勤務医の過重労働により地域医療が支えられている実態を踏まえ、医師の時間外労働規制については、以下のような特例が設けられることになった。

また、もう一つの議題である「医師の働き方改革」については、日本医師会として、「医師の健康」と「地域医療」が両立する制度の実現を目指し、国に対して強く働き掛けていくとした。

次に、令和3年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催担当である上田朋宏京都府医師会理事より、同協議会の概要について説明が行われた。

続いて、城守国斗常任理事から、2018年6月に「働き方改革関連法」が成立したことに伴い、医師の働き方改革に向けて、厚生労働省「医師の働き方改革に関する検討会」で作成されたフレームワークを基に、同検討

た」と述べた。

(1) A水準：年間の時間外・休日労働時間が9600時間以内収まる医師を雇用する医療機関へ適用される。

(2) 連携B水準：本来の勤務先での診療に加え、大学病院・地域医療支援病院等で、地域医療提供体制確保のために副業・兼業を行う医師を雇うための医療機関を想定。

(3) B水準：二次救急医療機関「二次救急車受入台数1000台以上」等、さまざまな要件を満たす医療機関に勤務する医師を雇用する医療機関を想定。

(4) C1水準：臨床研修医・専攻医を受け入れる医療機関を想定。

(5) C2水準：特定の高度な技能の修得のため、集中的に長時間研修する必要がある医師を雇用する医療機関を想定。「高度な技能」の内容は、「審査組織」により具体案が作成される見込み。

その上で、B・C水準に該当する医師を雇用する医療機関に関して「評価機能仮称」に水準認定申請を行う。評価機能は申請内容を

基に評価を行い、その結果を都道府県に提出し、それを都道府県は当該医療機関の指定について判定を行うことになる」とした。

また、「追加的健康確保措置」に関しては、①連続勤務可能時間は28時間まで②C1水準の臨床研修医は15時間まで③勤務時間インターバルは原則9時間④勤務時間インターバルを実施できなかった場合は「代償休息」を付与する⑤当月の時間外・休日労働が100時間に到達する見込みが高い場合は、産業医または講習を受けた医師が面接指導を実施する⑥時間外・休日労働が月155

から、また中核病院の医師から患者を紹介されても、各医療機関の特徴を理解できているので、連携がスムーズにいくと考

また、医師のライフサイクルを考え、魅力的な研修、関連病院研修、基礎研究、留学、女性医師の仕事などを勘案して、次の三つのコースを設定した。

一つ目は、入局後10年程度で内科認定医、腎臓専門医、透視専門医を取

二つ目は、留学を目指す場合は大学院、留学期間を入れると入局後15年前後で博士号取得、海外留学も経験できるコース

三つ目は女性医師の場合である。女性は30歳前後で結婚する機会が多いので30歳代は産休、育児を取りながら短時間勤務でも内科認定医、腎臓専門医、透視専門医を取得することができるとコースである。

長期的なキャリア形成の方針が明確だったので、我々腎臓内科は研修医から人気があり、私が退職した平成25年3月末時点では43名の医師が所属していた。

やはり、個人個人の希望を十分考慮して、適材適所で仕事をしてもらうことが大切だと考える今日この頃である。

であることに触れた上で、「日本医師会は、コロナ禍にあって、勤務先医療機関の形態や機能、規模の大小にかかわらず、今回の制度改革が現場で働く医師の苦勞に報い、支えとなるものではない、引き続き、必要な財政的支援が医療全体に行きわたるよう、国に対し全面的な支援を要望していく」と強調。

加えて、今後も勤務医の声に耳を傾けながらさまざまな問題に取り組みとするとともに、新型コロナウイルスワークシンの接種推進に全力を傾けていくとの決意を表明し、協議会は終了となった。

勤務医のひろば

私の医師のキャリア形成についての考え方

自治医科大学名誉教授/地域医療機能推進機構うつのみや病院名誉院長 草野英二

教育やその後のキャリア形成に関しては、特段の思い入れがある。

「経験は最大の教師をモットーに、研修医教育は種々の臨床経験が積めるようにアレンジした。すなわち、大学病院で指導医の下で臨床経験を積み、中核病院でも少し自由に診療ができたので、積極的に派遣に出した。

更には、診療所での経験も重要と考えたので、近隣の透視クリニックで外来診療や透視診療を経験させた。

これにより、大学病院以外の医療現場をおおよそ経験できるだけでなく、例えば診療所の医師

から、また中核病院の医師から患者を紹介されても、各医療機関の特徴を理解できているので、連携がスムーズにいくと考

また、医師のライフサイクルを考え、魅力的な研修、関連病院研修、基礎研究、留学、女性医師の仕事などを勘案して、次の三つのコースを設定した。

一つ目は、入局後10年程度で内科認定医、腎臓専門医、透視専門医を取

二つ目は、留学を目指す場合は大学院、留学期間を入れると入局後15年前後で博士号取得、海外留学も経験できるコース

三つ目は女性医師の場合である。女性は30歳前後で結婚する機会が多いので30歳代は産休、育児を取りながら短時間勤務でも内科認定医、腎臓専門医、透視専門医を取得することができるとコースである。

長期的なキャリア形成の方針が明確だったので、我々腎臓内科は研修医から人気があり、私が退職した平成25年3月末時点では43名の医師が所属していた。

やはり、個人個人の希望を十分考慮して、適材適所で仕事をしてもらうことが大切だと考える今日この頃である。

であることに触れた上で、「日本医師会は、コロナ禍にあって、勤務先医療機関の形態や機能、規模の大小にかかわらず、今回の制度改革が現場で働く医師の苦勞に報い、支えとなるものではない、引き続き、必要な財政的支援が医療全体に行きわたるよう、国に対し全面的な支援を要望していく」と強調。

加えて、今後も勤務医の声に耳を傾けながらさまざまな問題に取り組みとするとともに、新型コロナウイルスワークシンの接種推進に全力を傾けていくとの決意を表明し、協議会は終了となった。